

島商で国際交流授業

英語の名前を漢字で

おにぎりや味噌汁の調理も

—◇米国のハイスクールから生徒二十人を迎え◇—



県立島原商業高等学校で
八日、米国コロラド州立ベ
アークリクハイスクールの
生徒二十人を迎えて交流
授業があった(写真)。

一行(生徒二十人と引率
教諭・保護者計二十五人)
は七日夕方米島。島原市で
は四泊する予定で、その
間、八日に商業高校での合
同授業、週末の土・日はホ
ストファミリーとともに自
由時間を過ごし、十一日
(月)に佐世保に向かう。

楠田教頭によると、同校
は「経済科」ができる前
から外国との交流があり、
現在は毎年二十人あまりの
生徒がアメリカとオースト
リアを交互に訪問してい
る。同校が外国の高校生
を迎えるのは今回がはじめ
で、ホームステイできる
家庭を探したり、特別の交
流プログラムを用意したり
と事前に準備した。

八日は朝、全校生徒と職
員が参加しての歓迎式があ

り、そのあと英語や書道な
どの授業。昼は日本食のお
にぎりや味噌汁などの調理
実習をして昼食。午後から
は剣道やダンス授業の参観
と、同校および島原市の紹
介ビデオの鑑賞および討
論。放課後は茶道部や剣道
部等のクラブ活動の様子を
見学した。

このうち日本文化に触れ
る二校時目の「書道授業」
では、相手の英語の名前を
漢字で書いてみせ、それを
手本にアメリカの高校生も
筆字に挑戦。ジョナサンさ
んは「恕那山」、ライアン
さんは「頼安」、ローレン
さんは「浪蓮」などとなか
なか撥った当て字で、日本
人が書くのも難しそうな字
だったが、まるで絵でも描
くような感じで芸術的な作
品に仕上げていた。また兄
弟や父母の名前を聞き出し
て同様に当て字で書いたり
もした。

同校の生徒らは英語を必
死に繰り出して意志意疎
通を図っていたが、各時限
を一緒に過ごした生徒たち
はアメリカの高校生の服装
や女子の化粧などにも関心
を持ったようで、休み時間

にはお互いに年齢や趣味な
どを聞いたりして交流を深
めあっていた。